

# 中国上海留学

私は、上海の[上海交通大学](#)に留学しました。



上海交通大学は、教育部直属の全国重点大学で、1896年創立の南洋公学がその前身です。西洋風の建築が特徴的な美しいキャンパスには現在約1200人の留学生が学んでいます。キャンパスは上海市の商業地区の中心に位置し、繁華街にありながらも比較的ゆったりとしており、治安も結構良いです。買い物も、近くに大型デパート群があって、その辺りは、毎日、大勢の人で賑わっています。また、地下鉄の駅にも近く、バスも多く、交通の便がとても良い学校です。最近江泽民前国家主席の出身校として国外での知名度を上げ、上海でも有数の留学先となっています。

また、歩いて二、三十分ほどのところに「上海図書館」があります。かなり大きな図書館で、本の販売も行っています。また、日本の新聞もおいてありましたので、日本の情報が欲しくなったら、行ってみるのも良いかもしれません。最寄りの地下鉄「徐家匯」に乗って数分したところの「人民広場」まで行けば、博物館があります。学生証を見せると、5元で入れますので、休日に行ってじっくり観るのもお勧めします。また、よくそこから福州路に行って、本を買ってました。ここは、有名な本屋さん通りです。ある時は、買いすぎてしまって、重くて手は痛いし、足は棒になるしで散々でしたが、卒論の資料や日本の小説（中国語訳してある）、中国語のテキストなど色々あって、本当に飽きないところでした。帰国の時は、とても持って帰れないので、他の荷物もまとめて船便で郵送しました。

私が住んだのは、徐家匯キャンパス（大学創業の地で、大学本部がある。住所：上海市徐家匯区華山路）の留学生楼「桃李苑」（下の写真）でした。二人部屋で、韓国人の女の子とルームメイトになり、また、いろんな国籍のクラスメイトも何人も同じ寮にいましたので、よく一緒にショッピングに行ったり、DVDの映画上映会をしたり、太極拳で遊んだりしていました。

もちろん勉強も沢山しました！私は、初級3のクラスになりました。初級3が一番人が多い級で、そのせいか生徒それぞれのレベルにも幅がありました。習うのは、「口語」（4コマ／週）「精読」（4コマ／週）「听力」（2コマ／週）です。留学生には様々な国籍の人がいますが、やはり韓国人、次いで日本人が多いです。年齢や職業などもまちまちで、韓国人の会社員の人もいて、会社の空き時間を利用して来ていると言っていました。彼らは、中国語を始めて四ヶ月だったのに、上達が非常に速くて、正直、焦りを感じましたが、結局は、本人のやる気次第だと、自分を含めた皆を見て思いました。途中でやる気をなくして授業に出ずに遊んでしまったり、独学したりする人も結構いました。独学は、一応勉強しているわけだからマシなのですが、やはりそう上手くはいかないようでした。また、上海はエンターテイメントが多いので、程々にしておくよう気をつけないと、遊んでしまうようです。

私は、留学前は、リーディングはともかく、リスニングやスピーキングがどうしても向上しなかったのです。今回の留学でも、授業が始まった初めの一ヶ月は、先生の話すことが判らないし、どこがどう判らないのかをちゃんと自分で説明できないし、周りが皆自分より上手く見えて自己嫌悪するしで、本当に辛かったです。しかし、毎日、予習・復習をじっくりきっちりしました。判らないところは、辞書で調べたり、ルームメイトに訊いたりしました。後に中国人の友人に家庭教師をしてもらうようになったので、その先生や、漢語角（※）に来た中国人に自分から話しかけて訊いたりしました。授業でも積極的に、時には筆談でも、質問しました。そういう交流を通して、段々と向上していったのだと思います。外国人の友達と（日本人同士でも）中国語で話したり、教材のテープを聴いたり、TVで言い回しを覚えたりするのも良いと思います。中国語漬けになった環境や、周りの友達や先生に助けられて、自分の中で中国語に対する免疫みたいなものが付いていきました。その結果、第十週目の中間テストでは、程々な成績だったのですが、最後の第二十週目にあつた期末テストでは、かなりの高得点で、総合的にはクラスで2番目の成績を取ることができました（成績は、中間・期末・平常点で総合的に評価されます）。

※「漢語角」というのは、寮の一階にあるコーナーで、ここで家庭教師や友達と勉強したり、交流を求めてやってくる中国人と話したりできます。私も、ここで、中国人の友人と「互相」という、お互いにお互いの言語を教え合う形の家庭教師をしました。

### 上海交通大学漢語進修コースについて

- ★資格：高校卒業以上で、18歳以上の方
- ★授業：8:30～16:30、1レッスン45分  
1日4レッスン、週5日、初級1～高級3まで  
(クラス変更可能。但し、昇級したい場合は、テストがある)  
1クラスの人数 15～20人
- ※上記はレベルやクラスにより異なる場合があります。

#### ★滞在

どれも電話、テレビ、エアコン、LAN接続付き

#### A：留学生宿舎（桃李苑）

2人部屋トイレ・バス共同…1日35元

2人部屋トイレ・バス付き…1日40元

#### B：留学生宿舎（聯興楼）

1人部屋トイレ・バス付き…1日70元



ちなみに、寮を出て、マンションを借りて一人暮らしをする人もいました。学校の周りはやや高いのだそうですが、少し離れたところなら、安いと思います。日本に比べたら、どこも安い！と言えるかもしれません。

#### ★食事

食事は、自炊する人も多いです。寮の各階に共同キッチン&共同冷蔵庫があるので、たまに友達の手作りの夕食パーティに呼ばれてました。

私は、大体、周りに美味しいレストランが沢山あったので、外食してました。たまに、合わなくておなかを壊すこともありましたが、おいしいお店を発掘して友達と行ったり、お店の人と顔見知りになって話したりして、楽しかったです。上海の味は、中国の中では、比較的甘めです。中華料理は、地方によって全く違うので、そういう地方ごとの文化に触れる機会でもありました。

★漢語進修生予定表

(ここでは、私が受けた漢語進修生の2月～7月までの予定表です)

期日	週	内容
2.16-2.20	1	2.16～2.20 新入生登録、学費の支払い 2.18 在学生登録、学費の支払い(8:30～11:30, 13:00～16:30) 2.19～2.20 新入生の健康診断(桃李苑前 12:30～) 2.20 9:00 新入生入学式
2.23-2.27	2	2.23 開講；選択科目登録、市内観光の申し込み
3.01-3.05	3	
3.08-3.12	4	3.8 12:45 市内観光(桃李苑前集合)選択科目開講
3.15-3.19	5	3.15～3.17 “金山農民画”参観の申し込み
3.22-3.26	6	3.22-3.24 関行キャンパス見学の申し込み
3.29-4.02	7	3.29-3.31 語学実習旅行申し込み 3.30 12:30 “金山農民画”参観(桃李苑前集合)
4.05-4.09	8	4.09 13:30 関行キャンパス見学(桃李苑前集合)
4.12-4.16	9	4.12-4.23 HSK申し込み
4.19-4.23	10	中間テスト
4.26-4.30	11	語学実習旅行
5.03-5.07	12	“五・一労働節”休暇
5.10-5.14	13	5.16 HSK試験
5.17-5.21	14	
5.24-5.28	15	来学期勉強する学生の漢語研修の申し込み及び関連手続き(ビザ延長、寮の予約、学費の支払いなど) 来学期の漢語進修生の予定のお知らせ 京劇の観覧
5.31-6.04	16	
6.07-6.11	17	
6.14-6.18	18	
6.21-6.25	19	
6.28-7.02	20	6.28-6.30 期末テスト 7.02 10:00 修了式

## 中国各地への旅行

中国留学の醍醐味の一つは、旅行です。各地で特色が全く違うので、私もいろいろと巡ってみました。近いところでは、クラスメイトたちと無錫や杭州へ日帰り旅行に行ったりしました。どちらも観光地化が進んではいましたが、きれいでした。何ととっても、すぐ近くなので、とても便利です。

それから、4月末の「語学実習」という北京、西安、鄭州から三択の旅行実習がありました。この際に、友達と鄭州（開封&洛陽）へ行きました。



この語学実習旅行は、様々な地方へ行って、実践的に中国語の力を伸ばし、かつ、中国文化を学ぶのが目的の、文字通りの修学旅行です。私も、どれも行ってみたいので選択に迷いましたが、卒業論文テーマが北宋の文人・蘇軾だったので、北宋の都であった開封へ行く「鄭州」コースを選びました。

昔日の都であった開封は、今はそこそこに都会ではるけれども、長閑な町でした。ここで、蘇軾が過ごしたのか〜と感慨に耽りつつ、観光しました（因みに、夏休みは蘇軾の故郷である四川にも行きました）。現地で実際に見る景色にいちいち感動していました。また、火車やお店で現地の人と話すことは、大都会の上海とは違う中国や中国人を知る良い機会になりました。

開封にある北宋の名判官・包公（包拯）の記念館



蘇軾とはやや時代がずれるのですが、中国の名判官の代名詞である包拯にも興味があったので、観光できて良かったです。小説で読んだことがあったので…。日本では、知名度が低いのですが、中国では抜群の人気でした。中国人のガイドさんが丁寧に説明してくれました。



洛陽にある竜門の石窟

洛陽もかつての都です。特に覚えているのは、竜門の石窟です。中国の仏教文化のすごさ、雄大さが伝わってきます。

この旅行で行ったところは、上海のような観光地化が進んだ大都会ではありませんでした。そのためか、上海よりも時間がゆっくりと流れているようでした。しかし、一方で、都会にあこがれる中国人も多かったです。この傾向はやはり、都会に富が集中し過ぎる中国の現実を表していると思いました。留学の目的の一つにその国の様々な側面を知ることがあげられると思います。旅行することは、中国の様々な面を知るのにとっても役立ちました。